

指導部だより 第3号

ある日教室に入って、「おはよう。」とあいさつをすると、クラスメートが「おはよう。」と返してくれたのはいいのですが、その声の大きさやトーン、言い方や声色までがまるで自分と同じでした。びっくりして、顔をあげると教室には、なんと全てのクラスメートが自分と同じ顔、同じスタイル、同じしぐさで教室に座っていました。

数学の時間が始まり、先生が「この問題わかる人？」と質問されたので、「はい」と手を挙げると、同じ顔をしたクラスメートが全員同じ右手を同じ角度で同じように挙げていました。先生が「次の問題わかる人？」と質問されたので、顔を左右に振ってわからないことを伝えようとすると、同じ顔をしたクラスメートが全員同じはやさで同じように首を左右に振っていました。

体育の時間で、100m走の記録を計測すると、右にも左にも同じ顔をしたクラスメートが全員同じ歩幅、同じスピード、同じフォームで走っています。タイムは全員同じでした。次にボール投げを計測すると、同じ顔をしたクラスメートが全員、同じタイミング、同じ角度、同じフォームで投げていき、記録は全員同じでした。

クラスメートは何をするときも、自分と同じ表情で自分と同じことをします。クラスメートの気持ちや考えていることが手に取るようにわかるので、優劣もけんかもなく、ストレスはないはずなのですが、なぜか何をやってもおもしろくありません。

このような学校に、学びや成長があるのでしょうか？

私たちは、自分とは違う環境で育った、自分とは違う感じ方や考え方をする人と出会い、得意なことや苦手なことも違う人と一緒に生活することで、自分自身を振り返り、自分の良さやほかの人の良さに気付くことができるのかもしれませんが。そして、自分とは違う人と同じ目標に向かって心をひとつにし、その目標を達成できたときに、難しいことをやりとげた喜びを感じるのかもしれませんが。

生徒でも先生でも関係なくひとりの人として、自分とは違うまわりの人を認め、その人の良さをみつけ、協力できる人になりたいですね。

私と小鳥と鈴と

金子みすゞ

私が両手をひろげても お空はちっとも飛べないが
飛べる小鳥は私のように地面は速くは走れない

私が体をゆすっても きれいな音は出ないけど
あの鳴る鈴は私のように たくさんな唄は知らないよ

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい